

地域畜産振興部門

北海道河東郡鹿追町 鹿追町農業協同組合

(代表：組合長 佐藤雅仁)

コントラクター事業による 地域農業の新たな展開



JA 鹿追町コントラクター課の方々

鹿追町は北海道の一大農業地帯十勝平野の北西部に位置し、大雪山国立公園の一部を含む夫婦山のふもとに広がる山麓農村地帯で、農業（酪農・畑作）を基幹産業としている。

コントラクター事業は農協の直営である強みを生かし、地区懇談会等により利用者の意見を反映し、労働競合の起る飼料作物の栽培体系の見直しや収穫作業の軽減・緩和対策などを目的に平成5年度に事業化された。事業化にあたっては、2年余りの準備期間を経て、10年の実績を積んでいる。現在の利用状況は酪農家の収穫作業面積の5割を超え、平成14年に策定した19年の計画をすでに15年に達成するほど成長している。これはコントラクターが同地域の酪農経営と畑作経営に大きく貢献し、地域の基幹産業を支えていることを示している。

コントラクターの運営を容易にするための特徴的な活動として、以下の5点が挙げられる。

第1に交換耕作である。酪農経営と畑作経営の間で交換耕作を実施し、農地を集積化し大型機械での作業を容易にしている。また、昭和38年から本格的に始まった、経営間の農地の交換分合も農地の集積化に大きく寄与している。

第2に飼料作物の収穫後の品質を安定させるため、詳細な気象情報を活用し、作況と天気を予測して作業を実施している。

第3に作業日誌の管理や衛星画像を利用した交換耕作の検討など、システム化により作業の効率化を進めるだけでなく、効果をより高いものとしている。

第4に地域の土壌にあった肥料の提供を一体的に推進することで、施肥効果をあげ、肥料コストの削減にも貢献している。このため、圃場ごとの土壌分析を行い、圃場に適した施肥設計を行うため、70種の原料を利用した肥料工場建設を行った。

第5に自前の整備工場を持ち、農用機械の整備はすべて自らが行う体制をとることで、機械の耐用年数を通常の約2倍に延長させている。

同コントラクターの事業化により、鹿追町農業協同組合管内の農業は次のように変貌してきた。

第1に飼料生産作業の軽減により、労働強化することなく、酪農経営の規模拡大とそれに伴う生乳生産の拡大をもたらした。現在の酪農家1戸当たりの乳牛飼養頭数は148頭と十勝地区の平均を大きく上回っている。

第2に飼料生産面積の拡大（飼料生産量の増加）とスケールメリットによるコスト低減だけでなく、生産される飼料の品質および栄養価の向上に結びついている。

第3に酪農家と畑作経営との連携による交換耕作の拡大により、畑作経営での連作障害が低減するとともに、農薬および購入肥料代が減少し、結果的に畑作物の品質向上と生産拡大をもたらした。また、畑作経営が堆肥施用を積極的に実施することで、酪農経営と畑作経営との間での合意形成を容易に行えるようになり、麦稈を敷料として利用するという地域循環が促進されるようになった。

以上のように同組合は、地域農業に不可欠な組織に成長し実績をあげている。単なる作業受委託だけではなく、牧草を畑作の輪作体系の中に位置づけ、牧草の種子の選定等、営農にまで踏み込んだ作業体系を確立しており、わが国の農業コントラクターでは先駆的な事例である。

▼大型機械での収穫

交換耕作で農地を集約し、大型機械による効率的な作業を実現している。



▼保守施設

組合自ら機械を保守することで、機器の耐用年数を通常の約2倍に延ばしている。



▼作業簿

詳細な気象情報等を活用し、効率的な作業体系を実現している。



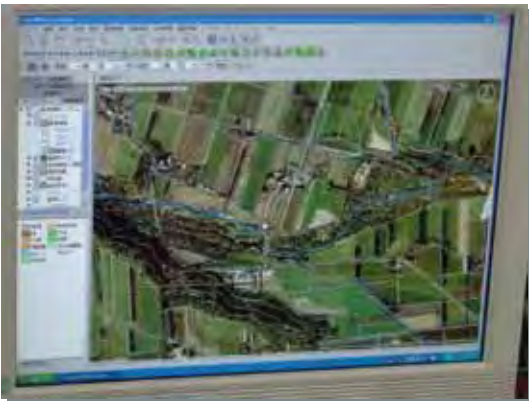
▼管理システム

作業日誌の管理など、システム化して管理業務を効率化している。



▼圃場管理

衛星画像を活用して交換耕作の検討、管理を行っている。



▼収穫作業

適期に収穫・調整をおこない、品質の高いサイレージの供給を実現している。

